

京橋の印刷

8月20日 1987・No.68

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

編集 近藤正弘
柴田博司

牡丹



作者紹介 松原友規(一八八八—一九八三)明治二十一年松江市に生る。四歳より筆を持ち、谷文晁(たにぶんちよう)および文晁の弟子で曾祖父の松文忠(松江藩主・松平不昧公の絵師)の画稿の模写を始め、次第に写生に移ってゆく。二十二歳頃上京、一時川合玉堂に師事。本郷(岡田三郎助)研究所にてデッサン習得。己れの理念に基づき、大自然と古典を師として、写生に没頭。大正中頃より昭和十二年まで、ほぼ毎年後援者による企画、石原求龍堂主催などにより個展開催。大正十三年から昭和二十年まで短歌誌「潮音」の表紙を描く。昭和五十五年(九十一歳)東京セントラル絵画展にて個展開催。昭和五十八年五月六日没。享年九十五歳。

巻頭言

七月恒例の地区長会の席上、小山支部長より京橋支部の現在組合員が29社に減少したとの報告がありました。また今年中に他地区に移転する組合員及び他地区に移転の上、今までの関係上当支部に在籍している組合員も多く見受けられます。益々組合員の減少は避けられない現状です。戦後の42年間、印刷業界の組織化の中で当支部は行政区画の統合にも多数の組合員によって単独支部として、千代田・文京と共に東京御三家の一支部として東京支部事業をその組織力、先輩諸兄の御尽力により、大きな役割をはたして来た事は、歴然とした事実です。売上高においても、東京都・大阪府を除けば愛知県と同額の売上高を記録して来ました。しかし、世代の移り変わりは、この地に中小の印刷産業を存続、育成させる諸条件を不可能にしてしまいました。現在土地問題等で種々問題が出ていますが、近年の経済社会の中で印刷製品の持つ社会的責任は、一業界だけのものでは無い筈です。印刷物の需要の増大の革新、印刷機械の大型化等、これら社会の要求する印刷物を満たす工場の操業は、中央区内の商業地域では面積、公害等の規制等により不可能になりました。

この事柄は、すでに十数年前からの再開発の青写真ではなかったのではないのでしょうか。行政の業界に対する善悪を論ずるのではなく、これも世の移り変りの一駒と考え、業界人として各自が今後の企業存続の在り方について熟慮しなければならぬ重要な時になりました。

副支部長 大竹 次郎

東印工組 京橋支部昭和62年通常総会

於 築地スエヒロ



五月十三日(水)、午後五時三十分、築地スエヒロ別館において昭和六十二年通常総会が開かれた。荒川副支部長の司会により、まず佐藤副支部長の力強い開会宣言に続いて、小山支部長より次のように挨拶が述べられた。

「本日はお忙しい中、東印工組本部より佐野副理事長を初め、ご来賓の方々のご出席を賜りまして有難うございます。」

先輩、組合員の皆様には多勢ご参会を頂きまして有難うございます。昨年四月新村理事長が東印工組理事長就任のご挨拶の中で「組合は組合員のために、組合員自身が運営し、一枚岩の団結と和の精神を貫く事が大切である」という指針を示されたわけでありました。その指針を京橋支部運営の指針としまして、この一年間皆様方から寄せられました暖いご支援により、大過なく支部運営が行われ得ました事を心から感謝申上げる次第でございます。支部のこれから来四月迄の事業としましては六月に、長寿者の集いを開催します。又九月以降、永年勤続者の表彰式や税務研修会等の、開催を予定しています。又本部事業と致しましては昨年より引続き組合員加入増強運動、共済制度への加入促進、又新しく適用されました営業士資格認定制度、そして本部事業の柱であります第3次構造改善事業として、「新たな時代を生き抜く業界計画」の積極的な協力推進を致したいと思っております。それから売上税の経過ですが、皆さんご承知のとおり、今日の新聞等によりますと廃案が決定致しております。売上税を含めた税制の問題についても今後東印工組の売上税対策特別委員会を中心にして納税思想の原点をふまえた、

次元の高い論議と対応をしていくことを念願致しております。本日の総会には1号議案から5号議案まで上程させて頂きましたので、どうぞ慎重審議をお願い申し上げます。最後になりましたが皆様方の益々のご健勝と企業のご繁栄を祈念申し上げ、併わせて私共執行部に対しましてご叱正、ご支援をお願い申し上げます、ご挨拶とさせて頂きます。」と結んだ。つづいて

司会の荒川副支部長が議長及び書記の選任を要請し、支部規約により公選となり、執行部一任をうけ、小山支部長が議長に湊地区長の中山氏、書記に築地地区長の近藤氏を選出した。中山議長の円滑な議事進行への協力要請の後、大竹副支部長から、第1号議案の61年度事業報告が次の要点項目に従って説明された。

。本部役員に、小宮山副理事長、長島常務理事

- 。支部財政緊縮政策により支部報の単色化
- 。中央区工業文化展に4色印刷機の初の百貨店内展示等会場産業のPR
- 。共済事業の充実、全国共済は第1位実績
- 。支部員への負担の軽減等の実施

第2号議案として収支決算報告が白橋副支部長が簡潔に説明、決算書の勘定科目の名称変更



と支部報・名簿の賛助広告を関連企業にお願いしないの方針により、支出もそれに合わせて極力削減し予算より200万円も少ない額で押さえた旨報告された。続いて同監査報告が田島監査により、会計帳票等の監査の結果、緊縮財政のもと特に指摘する事項はなかった旨の報告があった。続いて中山議長は、第1号、第2号議案についての質問発言を求め、全会一致で承認された。次に第3号議案の62年度事業計画案が、大竹副支部長より次のように説明された。「詳細は御覧のとおりで割愛させて頂きますが、私共が一番危惧しておりますのは、京橋支部の組合員の減少が大変著しいという事です。本部では組合員増強運動というのをやっておりますが、残念ながら大川端開発計画、湾岸線延長計画等により印刷業者の他地区への移転や転廃業等で

本部の意向に添えない事は、今年度我々執行部に与えられた大きな課題で、今までと違った意味での我々の責任というものがあるのではないかと思います、これを今年度の事業計画の基本的なものとして考えていきたい。

また若い人々、京青会等の活力を生かして行きたい。この二つを大きな支部事業として、力を入れて行きたいと思えます。」

次に第4号議案として62年度収支予算案が白橋副支部長より次のように説明された。

「62年度は収入総額は前年度より減少していますが、支出の部では長寿者の集い、永年勤続者表彰等の支部事業があり、又工団連会費の増額や印刷会館の家賃も23%程度増え、予備費もわずかの財政状態ですが、執行部としては極力節減の上、なおかつ支部事業が円滑に進められるようにしたい。」

以上の第3、第4号議案の質疑の提議に移り、異議なしの声と全員拍手で承認されました。

そして5号議案のその他は動議もなく、議長書記の解任のあと来賓の挨拶があり東印工組佐野副理事長は次のように挨拶した。

「本日は新村理事長の代理でお伺いしました。只今は新年度の支部総会が誠にスムーズに滞りなく終了致しましておめでとうございます。

大変りっぱな決算、予算を拝見致しまして、さすが東印工組随一の京橋支部の決算だと、敬意を表します。うらやましく感じた次第です。緊縮予算と言われましたが、仲々中味は立派なもので、心からお慶び申し上げます。

京橋支部の皆さんには常日頃、ご協力を賜っております。本部副理事長として、京橋から小宮山さん、常務理事の長島さん、それに支部長の小山さんと大変ご尽力を頂いて致しております。その他多勢の方々にも各委員会、理事として本部事業にご参加頂いております。新村理事長からもよろしくお礼申し上げてくれと伝言されています。厚く御礼申し上げます。

ここで、本部事業について簡単に説明します。第一に第3次構改ですが、これは当支部の長島さんが担当ですので私から報告申し上げますまでもございませんが、目下長島さんは大変苦労されています。調査票の回収、そして七月の申請、認可と続くわけですが、伺いますと京橋支部では100%回収で、さすが担当常務理事の地元支部だと敬意を表すと共に御礼申し上げます。これは新村執行部の事業の柱でもございます。経営改善委員会を担当しますが、その立場から積極的に協力申し上げたいと考えています。

次に営業士の技能検定問題ですが、この問題についても当支部の小宮山副理事長の担当でございます。私から申し上げる事はございません。すでに機関誌や業界紙等で日印産連の答申内容が詳細に掲載されています。過日の理事会でも承認されておりますが、要するに二年をメドに検討する。その間は全印工連としては、技能審査認定制度に移行するという事です。これもまた小宮山副理事長に負担をかけるということで誠にご苦労さまでございます。構改とい

い、教育制度といひ組合事業の柱でございます。それからこれは新しい今年度から取組む本部事業ですが、情報ネットワークづくりの研究です。これは国や都の助成をうけて組合と組合員の間を結ぶネットワークを研究してゆこうということでございます。最近どんどんと拡大していく情報化社会の中で、それに対応する準備を進めていくということで、これも第3次構改の枠組みの中で実施をしていきますが、今年度から特別委員会を設置してその研究に着手することを決定しました。次に組合費の改定ですが新村理事長の方針により、今年度は我慢して見送る事で理事会で承認されました。

又組合事業の推進はなるべく不要不急のものは簡素化していく、重点主義で絞っていくという事です。来年度は組合財政も楽ではなくきびしいものになる事は否定できません。以上ご理解賜り、ご協力下さるよう、お願いいたします。

最近技術革新、円高不況や都心の土地の値上がり等、我々業界には大きな問題をもたらすものばかりでございます。このような時ですので新村理事長の所信であります一枚岩の団結が益々大切ではなからうかと考えます。私共執行部は任期一杯がんばっていききたいと思ひます。一層のご支援をお願いします。最後になりましたが、京橋支部の益々のご繁栄を祈ります。との挨拶があり続いて中央区工団連宝田会長より、「円高不況に揺れる蒲田の工場」のテレビ放映を例にあけて、「今日程組合の存在を重視して組合は情報を流し、組合員はお互いに助け

合つてやる。こんな時代ではなからうかと痛切に感じた次第です。」と所感を述べる挨拶があった。

来賓の紹介では中央区茂木商工課長、東製工組京橋支部豊田支部長、中央厚生事業協組牧野理事長が紹介された後、閉会のことばで児玉副支部長は「今度の売上税反対運動で、印刷工業組合を始め同業組合というものが頼もしいものを感じた事は近來なかつたことです。今後東印工組、並びに京橋支部の発展を願ひまして閉会

恒例 長寿者の集い 於・京橋会館

去る五月十九日、十二時より京橋会館において支部恒例の「長寿者の集い」が、該当者78名中21名が出席され、区長ほか来賓の出席もいただき、賑やかに行なわれた。開会に先だち支部長は次のように挨拶をして長寿を祝い支部執行部へのお力添えをお願いしました。

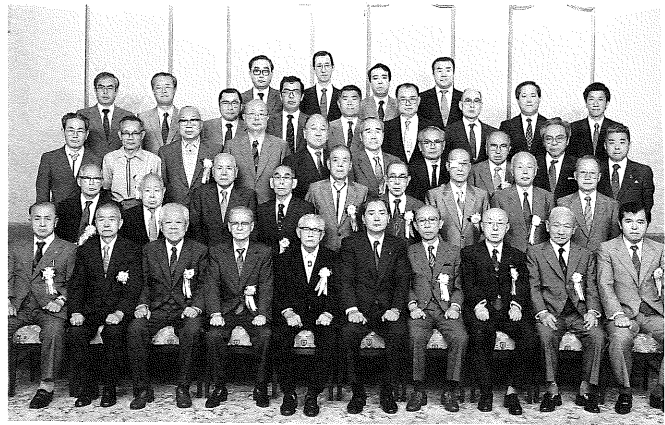
「本日はご来賓の方々、長寿の方々には暑い中お多忙のところご出席を下さりまして有難うございます。70歳以上の方をお招きして長寿者の集いを開かせて頂きました。

さて支部の近況につきましては先の臨時総会、通常総会でもご報告申し上げましたとおりであります。支部を取巻く状況と致しまして、皆さんご高承のとおり地価の高騰がございます。その影響で憂慮すべき現象が起きています。

の辞とさせて頂きます。」と締めくくり通常総会は終了しました。

引続いて別室にて懇親会が開かれ、佐藤副支部長の司会で乾杯の音頭は小宮山副理事長の乾杯の発声と共に杯を上げ一同歓談に入りました。宴半ばになり、中央区新区長の矢田美英氏もかけつけて、「皆様の力強い支援をうけて当選させて頂きました。中央区の印刷業発展のため、微力をつくしたい」と挨拶をして今後の地場産業振興を強調していました。(編集部)

ございますが、その中で転・廃業又は他地区へ行かれるということが日に増して大きく浮かび上つています。このような傾向をみておりまして私共執行部といたしまして何とかしなければいけないという焦燥感に駆られます。今、東京都全体で東印工組組合員が27社あり、我が京橋支部は26社加入しており、約1割近い数を維持しています。そして東京全体の印刷業界の出荷額(売上高)は一兆六千億でございます。中央区の印刷業界の売上高は一千五十億円で全体の約6.6%、一番多いのが板橋区、次に新宿区、港区です。4番目を中央区が占めています。この板橋、新宿、港の三区は皆さんご存知のとおり大手の企業があり、出荷額も大きいわけです。このことを考えますと我が京橋支部のある中央



東京都印刷工業組合京橋支部 長寿者の集い S.62.6.19 於京橋会館

区の印刷業者が如何に健在で頑張っているかというところでございます。その現実、長寿者皆様の永年に亘るご貢献、また印刷に対するひたむきな情熱、そしてその積み重ねがこのように生きているのではないかと斯様に考えます。「温故知新」の教えにありますように「古きを尋ね新しきを知る」ということがございます。私共後輩と致しまして長寿者の皆様の永年に亘るご貢献、ご業績に対して衷心より敬意を表し、また何とか皆様方と親しく接してお話を伺いする機会を得たいということで今日の集いを設けさせていただきました。久しぶりにお会いす

る方もございます。皆さんいずれもお元気で私共一同、ご同慶に堪えない次第でございます。今日ご列席の瀬戸昇之助さんは卒寿を迎えられ、数え年91歳という高齢で、まだまだ海外旅行をなされているという事をお伺いし、私共の励みになります。本日はご来駕を頂いて本当に有難うございます。今日はそのような趣旨で、私共後輩が皆様方に敬老の意味も含めて、また真心をこめて意義のある一刻を過したいということでございますが、支部財政の緊縮の折から充分なおもてなしも出来ません。しかも皆様方から会費まで頂戴致しましてほんとに申し訳なく思っています。この会が有益であることを願ひまして、それからいよいよ暑くなりますのでご自愛を頂きましてご健勝を限りなく、お祈り申し上げます。また私共に対しましてご指導、ご鞭撻を頂きますようお願い致します。」

続いて来賓の東印工組富田副理事長が挨拶され、今日は新村理事長がお伺いしまして皆様方に親しくご挨拶を申し上げるところでございますが所用のため私が厚生担当の副理事長として代理でお伺いしました。本日は京橋支部の長寿者の集い誠にめでとうございます。東印工組の中核としての京橋支部にあって永年に亘り業界の発展のためにご尽力頂いております皆様方に心からの敬意を表し、お慶び申し上げます。片貝印刷が昭和36年迄京橋の室町で営業させて頂いております。私事で恐縮ですが私の会社頂いております、京橋支部員として皆様方に大変お世話になっていた者でございます。今日

こうした席で先輩の皆様方にご挨拶申し上げる機会を与えられましたことを、大変光栄に存じている者でございます。先程支部長が申されましたように、70歳以上の方々を対象という事でこの名簿にございます78名の方々の内、1/2位の方がご参集頂いているようでございます。ご存知のように本部にも敬老の集いという催しが毎年ございまして、これは77歳以上の方を対象に、年々長寿者の数が増加しています。今年は恐らく270名位になるのではないかと思います。ちなみに今年の敬老の集いは明治神宮の都合もありまして9月11日(金)に行われる事にきまりました。厚生委員会では皆様方に少しでも喜んで頂けるように何かと趣向をこらしておりますので、ぜひ皆様お誘い合せの上、ご出席願ひたいと思います。今や日本も世界の長寿国といわれておりますが厚生省の厚生白書にも従来の高齢化社会という言葉にかえて、人生80年時代という言葉が使われております。又厚生省の統計によりますと、男性で80歳、女性で83.4歳まで生きられるという統計推計になっているようでございます。まさに人生80歳時代の到来というべきでなかるかと思ひます。なるほど私達業界にスポーツを当ててみますと、先程申しました敬老の集いの人員構成、人員増加を調べてみますと、昭和55年に77歳以上で敬老の集いに該当されます方は144名ございました。それから6年後の61年には258名と約倍近く増えております。その内容を調べますと、90歳以上の方が55年では6名でしたが61年では12名と倍増しています。80歳以

上ではこれは驚くほど増えています。55年には75名でしたが、61年には169名と倍以上になっています。これをみましても厚生白書にもありませんが、人生80年時代というわけでございます。50、60は花ならつぼみ、70、80は花ざかりといわれておりますが、正に皆様花盛りの時代を迎えられたわけでございます。しかし長生きは健康がもとです。お金では買えません。今の世の中、金で何でも買えると思っている人が多くいます。いくら金を出しても買えないものがあるわけです。その中のいちばんにあげられるのがやはり健康です。かつての政界の駒を一手に握ってこれを思うままに動かしていた政治家にしましても健康だけは金では買えなかったようです。皆様がこのように長寿を保っておられるには、それぞれ独特の健康法を維持しておられると思ひますが、私もこの夏が過ぎますと73歳になり、私は私なりに歩くことを健康法として、一日一万歩を最低歩くようにここ十年間続けています。これは私には最大の健康法です。それから、心の健康法というわけでもありませんが、今から十年前に四谷の税務署長が我々身近なもの心の戒めとして、話の中にありましたこととで、今日持ってまいりましたが、御覧になった人もあるでしょうが、私はこれを自分の部屋に貼って自分の努力目標にしています。それは「気心腹口命」と書いてあります。これを読みますと、非常に含蓄のある言葉で、気は長く、心まろやかに腹立てず、口慎めば、命ながしと読むのだそうで書体もそのような形になってい

ます。皆様もそれぞれこのようなものでなく、よい健康法を持っておられると思ひますが、これからも一層健康に留意され元氣にお暮らしになりますように、また最近の組合運営も非常に難しい時代に入つてまいりまして、当支部から出ておられます小宮山副理事長は全国的に守備範囲の広い、また非常に難しい教育関係を担当され、日夜大変な苦勞をされています。又長島常務理事も今年度の事業計画の柱ともいふべき構改事業の推進委員長として全力投球で頑張つて頂いています。どうぞ皆様方にも、何かと業界にお心くばりを賜りますよう、お願い申し上げます。」と祝辞をいただいた。

つづいて小山支部長より長寿者の皆さんへ贈る色紙(青春)についての説明があり、白橋顧問が長寿者を代表して次のような挨拶を述べました。

「本日は長寿者の集いに招かれました方を代表しまして、本部、京橋支部及び今日の催しにご苦勞を頂いた執行部の皆さんに厚く御礼申し上げます。日が立ちまして知らぬ間に私も86歳となりました。只今小山支部長よりほんとうに切々とお骨折りの、本当に磨かれたお心を我々にお示し下さつて何とも言いようのない、深い有難みを感じました。本部の富田副理事長の挨拶からいろいろと博識なことを聞かせて頂き、人生の有難みというもの深く考えさせられました。今日の会を催して頂いた執行部の皆さんが心から暖い気持を私共に与えて下さつたことに対して感謝にたえない次第でございます。

今日のような会にいつも顔をみせる二、三方がみえないのは、事情もあるかと思ひますが心淋しく会えないのが残念です。簡単ですが京橋支部の発展と長寿者の方の健康を念じまして御礼の言葉と致します。」と感謝の言葉があり、引続つき記念撮影の後、業務の都合で遅参された中央区茂木商工課長より「本来矢田区長が来て挨拶すべきところですが、公務上の先約がありますので私が代理出席させて頂きました事をお許し頂きたいと思ひます。本日はここに東印工組京橋支部の「長寿者の集い」を開催されまことは大変意義深い行事でございます。おめでとうございます。

長い歴史と伝統を持つ印刷組合京橋支部の皆様方がこのように先輩を厚く敬うということは大変意義の深いことであつて仲々誰にでも、出来る事ではないと私共は認識いたしております。日本ではこれから高齢化社会ということがいわれて、ますます若者が平和の精神をもって生活をしていかねばならないわけですが、そうした若者に対する観点からも、組合の皆様方の事業は大変有意義なものであると考えています。中央区にありましても皆さんの業種にしまして、大変な時代に入つてますが、私共も出来る限りの皆様方の地場産業としての育成の観点から努力を惜まない積りですが、私共がいくら笛を吹き、太鼓を叩いたところで皆様方のご理解がなければ叶わないというふうにご理解しております。今後共全力をあげて新しい区長のもとで頑張つて参りたいと思ひますので皆様方のご協力

の程をよろしくお願い申し上げます。本日はお招きを頂きながら業務の都合上やむを得ず遅参したことをお詫び致しまして簡単ですがご挨拶とさせて頂きます。」と挨拶がありました。

続いて瀬戸顧問が「本日は役員の方々には非常に忙がしい中をこのような会を設けていただき本当に感謝しております。ご一同の健康を祝して乾杯します。」と祝杯の音頭で集いの開宴となりました。会は楽しくなごやかにすすみ皆さん久しぶりの再会に、懐古談の話に花を咲かせる宴となりました。今年は予算の都合もあり

京青会五月研修会

中央区地域整備の推進について

——中央区建築部地域整備課 吉田課長に聞く——

京青会は、五月二十八日(木)十八時三十分より印刷会館において、中央区建築部にこの四月より新設された地域整備課の吉田課長以下四名の主事を招き、五月の研修会を開催しました。小倉・浜野両幹事の司会進行により中央区の地域産業である印刷関連業に対する行政方針等について、二時間以上に亘り、説明や質疑応答を行い、活潑な意見交換をしました。吉田課長の地域整備についての説明は次の通りです。中央区の人口は昭和三十年の十七万三千人をピークに、現在約八万人の住民数となっております、このまま

演芸もありませんでしたが、それだけ皆さんが話をする時間もでき、また宴半ばには小宮山副理事長も、挨拶に立って、現在の本部教育委員会の営業士検定の推移等の報告がありまして、歓談つきぬ2時過ぎに石沢顧問による万歳で締めくり、荒川副支部長の閉会のことで、又の再会を約し、楽しい一刻を思い出にお開きとなりました。なお当日は、部長・監査・各地区長の他に、相談役・参与の方々を含めて合計45名の方々が集り長寿者の労苦を偲びながらお祝いしました。

(編集部)

地上げ屋等による土地買上げが進むと、更に人口減につながるとして、従来ただ住居アパート等を建てれば、人口増につながるしてきた方針を改め、下町都心区の産業を育成してそこに働く従業員の住居を区内に定着させる方向に持っていきたいとしています。現在、地価高騰による住民の区外移転と、それによる生活必需品、(魚屋、八百屋、浴場等)の減少が、生活の不便をもたらす等の悪循環を防ぐため、「三ゾーン構想」を基に、いわゆる業務地化しようとは考えていない。中央区は都心区ですが、都

心コミュニティの形成要素の強い所です。その点で地域の個性を生かした町づくりを標題に都心コミュニティの形成といったものを大事に、下町らしい人間関係を残した町づくりをしていきたい。新コミュニティの建設で、今中央区で一番深刻な問題は業務地化という、ここでオフィスビルを建てて賃貸することは採算がとれるというわけで、「底地買い」ということが問題になってますが、これらの問題を今流に言えば、情報化社会の到来とか言われていることが根底に据っているわけです。この時期に私もがいう人口の回復にしても現象的にみればそんなに難しくはないと思います。都心に住みたいという需要はかなりあります。ただ国際化社会への対応のなかで、例えば千代田区とか、中央区の都心の一般業務は二十四時間操業になっていくと思うのです。フルタイム操業になっていくような町の中で、会社のオフィスとか、寮か住居か判らないような住宅が増えてくると思うのです。したがって逆にいえば、「人口十萬というのは簡単だよ」という根拠も出てくるのではないのでしょうか。「国際都市東京」というのが今現在の向って行く方向だとすれば、単純に数だけ増やすのは容易だと思っております。しかし単純に数だけで推し測ったのでは現実的にここにある下町らしい生活とは相容れない生活が突然割り込んできてしまつて、地域の生活、コミュニティというものがなかなか生かしてゆけないのではないのでしょうか。そういう断絶といったものを区の行政がどのような形で埋め

開発事業届出件数 (昭和60年 6月1日から昭和62年 3月31日まで)

地区別 件数 規模	日本橋地区		京 橋 地区		月 島 地区		合 計		計
	建替等の 自主開発	その他の開発 (底地買)	建替等の 自主開発	その他の開発 (底地買)	建替等の 自主開発	その他の開発	建替等の 自主開発	その他の開発	
500㎡以上 1000㎡未満	22件	9件	14件	19件	2件	—	38件	28件	66件
1000㎡以上 2000㎡未満	7件	4件	6件	12件	2件	—	15件	16件	31件
2000㎡未満	1件	1件	3件	3件	3件	3件	7件	7件	14件
合 計	30件	14件	23件	34件	7件	3件	60件	51件 ※1	51件 ※2

※1 その他の開発事業、開発事業者数 11社

※2 開発届出総事業面積 156,747.4㎡、1件当り平均事業面積 1,421.1㎡

ていけるのか、このことが今後重要な課題になってくるので町造りをするなかで考えていかなければならないことだと思つてます。皆さんにお配りした資料に従つて説明してゆきますと、まず中央区の地図ですが、これは今中央区の開発計画を大ざっぱに分けたものです。その中に時計数字のⅠ、Ⅱ、Ⅲとあるのは、中央区の現状の把握方法について、私共が三つのゾーン(区域)にわけて考えているということです。第Ⅰゾーンは、地図の上からいけば、日本橋、八重州、銀座という区域で1号線から西側の部分です。ビル街の業務地が殆んどで、定住人口は殆んどありません。この区域に住宅をつくることは考えていません。都心の業務地としての機能をレベルアップする形で町造りを進めていきたいと考えてます。第Ⅱゾーンは高速1号線の左側で隅田川迄に囲まれた部分です。これは現在商業地と業務地と住宅の混在している地域であると思われる。この混在地域をできるだけ秩序ある混在地域にして、ここにある住宅を出来るだけ減らさないようにしようと考えています。この第Ⅱゾーンは北から繊維問屋街、真中は印刷工業が主に占め、南は築地の水産卸売業です。中央区の商工業の主要なものがここに位置しているわけです。各々の産業振興といったものを合せてやっつかないかと住宅もなくならないような状態にあるわけです。ここは第Ⅰゾーンに較べて比較的業務地化が遅れているわけですが、都心との距離は非常に近い。それに着目したのが不動産業者で昭和五十九年

の春頃から顕在化してきたもので、今中央区で一番問題になっているのが底地買いです。大手不動産等の名前があがつて底地買いが行われているのはこの第Ⅱゾーンです。第Ⅲゾーンとしているのが、月島と晴海の地区です。ここは実は明治以降の埋立地が大部分で、佃島は江戸期からありましたが、佃二丁目、三丁目は明治三十年以降の埋立地です。ここは明治以降、工業が盛んであったので、明治・大正時代に工業住宅地として作られた街で、現実には昭和三十年代から道路が整備されましたが、都心に近すぎて問題となり、工場の郊外移転が促進され、大部分倉庫と小規模の印刷工場等がありますが、かなりの住宅もあります。人口が減少しないのはこの月島地域で、区では住宅を中心にして開発していこうと考えています。大まかに三ゾーン地区にわけて町づくりをしているわけですが、具体性のある地域とか民間の開発事例を対象にしながら、或いは民間開発の活潑な地域では個々に、その地域を対象に調査の委託を行っています。次に地区整備基本調査の時期ですが、これについては私どもは昭和四十七年から行つていまして、箱崎シテイ・エアターミナルビルが出来るときに行つたのが最初で、私はこのシテイ・エアターミナルの周辺に及ぼす影響効果について考えがいをしており、これが出来ると町づくりも大変変わるのではないかと考えていたのですが、利用者は高速道路を使用するだけで当初の予定とは大分違つていました。また五十年には月島の調査をやり、そのあとやや時



が経過しましたが五十七年には築地の調査をやり、築地市場の場外市場についての再調査も行いました。場内市場については東京都の整備管理になるわけです。先に述べた箱崎や月島の調査はその後本格的に取組んでいませんでしたが、この築地場外の再整備については昭和六十年には中央区が全額出資で、中央区都市整備公社を作りましてこの公社が場外市場の共栄会という所（晴海通り交差点角）の一部を共同ビル化する計画を纏め、再開発します。店子が四十店舗

ほどあるうちで、営業中が二十七店舗ですが、これらは中央区の所有する旧河川敷の所を埋立てて臨時駐車場にしていますが、この一部を仮設店舗にして営業しています。又昭和六十年と六十一年には、新川地区で佃島につながる道路橋が出来ますが、この道路整備と合せた町づくりを一年間行いましたが、この調査を行っている最中に、新川地区はもうびつり底地買いが足を入れてましたが、私共が再開発ということと話すのですが、私共が何か民間開発のお先棒を担いでいるようで調査自体も仲々スムーズに行きませんでした。何とか報告書までは纏めたのですが具体的にどういう方向へ話を持ってゆくかはこれから充分に検討していきたいと思えます。次に今年第Ⅱゾーンの中の新富、入船、湊の三地区の調査を始める予定です。これも底地買いの買占めがすすんでおり、大変難しい所ですが、この三地区を対象に地域整備を行なおうというわけです。私どもは新川の二の舞を踏まぬよう、ただ単に建物の作り替えということだけを考えずに、新富、入船、湊地区には印刷業が多数あり、京橋地区の中では非常に人口の多いところで、この人達に何とか今後も住み続けてもらい、なおかつ、印刷業を振興させたいという観点から行うわけです。実は印刷業の振興というのは私共がどのようにすればよいのかよく判りませんので、皆さんにいろいろと教えて頂ければ幸いであると思っています。区が調査機関に委託して、それで通り一遍の調査を行うのではなく、印刷業については特殊な問題で

ありますから、印刷業の代表の方が前もって調査の過程で評議会を作り、アンケートを取ったりしながら、一つ一つ相談して事を進めていくよう考えています。

次に民間開発の実情について述べていきます。実は皆さんに先程から主要なテーマとしてお話ししているのは商業とか工業とか住宅とかを全部オフィスにしていくという経済的力です。

これは社会が情報化或は国際化していくなかで、都心のオフィスがどうも不足していることが起因していると思います。なぜ都心にオフィスが必要かはよく判りませんが、どうもOA化による1人当りの使用スペースが広がってきているという傾向で不足しているのではないのでしょうか。OA機器を導入した場合既存の事務所では設備的な施設が非常に足りないらしいのです。少くとも床下に配線がなされないといOA化には対応できないらしいのです。私等は三つ又、四つ又のソケットがあれば済むのではないかと単純に考えてましたがどうもそれではだめで、OA化ビルでは二重スラブのように床下に機器のための配線がしてなければ事務所として使えないということです。したがって既存のビルを改修してというのはなかなかうまくいかないようです。そしてOA機器も型式が一年周期位で新しくレベルアップするので、そのためビル自体も大きな貨物用エレベーターのあるビルでないと機材の搬出入に困り、また精密機械なので窓から出入れする等ということとはできずエレベータによるしか方法がありま

せん。一昨年からそのようなことで都庁の新宿への移転の話もありますが、小規模にビルを建替えるよりは初めからO A対策を立てたインテリジェントビルを建てた方が得策だからです。それが新宿移転の大きな要因となったのです。

このようなことでO A化問題から出てくる都心事務所用地、それから情報化と交通機関が非常に発達したというので、大手企業も地方にある支店や出張所を徐々に撤去して廃止してゆく傾向もあります。交通機関の発達利便は日帰りで日本中どこにでも行けるようになっているので地方に事務所を持つ必要性がうすらぎ、地方都市はビジネスホテルの建築ラッシュになっていきます。そして地方支店をなくしてその代り都心に集中して多元的情報を解析した方が効果的だというのが都心の業務地は評価が高まっている。それから日本の国際化ということ、東京というのはすでに、ロンドン、ニューヨークと肩を並べる経済都市になって来ている。イギリスにおいては香港、シンガポールといった大英帝国時代の、アジアにおける経済の拠点、シンガポールの独立、香港の一九九〇年には中国への返還等があり、その地位が危くなつて来ているなかで、アジアへの拠点又は経済センターとしての機能が東京に集中していますから外資の進出も活潑なものがあるわけです。例えば皆さんご承知のように、勝どき橋近くに大きい赤いノッポビルのIBMのビルが建ちました。IBM専用であれだけ大きければ充分だと思いますが、今度建つ三井倉庫のオフィスビ

ルは全館がIBMの事務所として使用される予定となっています。そのようなわけで国際資本の東京進出で中央区にもいろんな形で動きがあります。このような国際経済のエネルギーで当然土地の価格は異常に上っているわけです。

先程の三ゾーン構想にならうていえば、第一、第二ゾーンというような地域はどんな不便な土地でも数千円はするという事態になってます。

絵の心

日本橋支部 馬場静山堂株式会社 田邊賢次

例年3月、上野の都美術館で開催される、私の所属している美術団体、新槐樹社展に京橋支部の長島常務理事にご案内を差し上げたところ、ご多忙な時間を割いてご来場を頂き、去年のヨーロッパ旅行での印象をもとにした私の作品の前で、暫く旅行での思い出などに話がはずみました。その折に長島常務理事からのこのヨーロッパの絵の話に添えて、旅行の一周年の思い出などを京橋の支部報に書いてくれないかとの御誘いに、その場の雰囲気であつかり同調し、後でこれは大変なことをお引受けしたものと後悔しましたが、思い直し拙文をも顧みずペンを取ることにしました。

昔から、絵に関わる諺にはあまり良いものもなく、例えば「自画自讃」などその代表的なもので、自分の作品について人に話をするとき、

この状況で町づくりを進めるわけですから、大変な事ですが、例えば三千万の土地ですと、中央区の間財政が三百億程度ですが、それで何平米の土地が買えるかといえれば三三〇〇平米です。ですから町づくりといつても民間活力による事務所作りとかの計画をある程度活用しないといけないわけです。そのようなわけで民間開発の誘導というのが私共にとって非常に大きなウエイトを占めるのです。(以下次号に続く)

いつも気になるのがこの言葉です。

「絵空事」実際にはないウソの世界の表現に使われ、「絵に描いた餅」に至っては、詐欺的な響きさえも感じます。どの言葉一つをとつても、永年余暇を利用して絵を描き続けて来た者にとつて、心地よいものではありません。

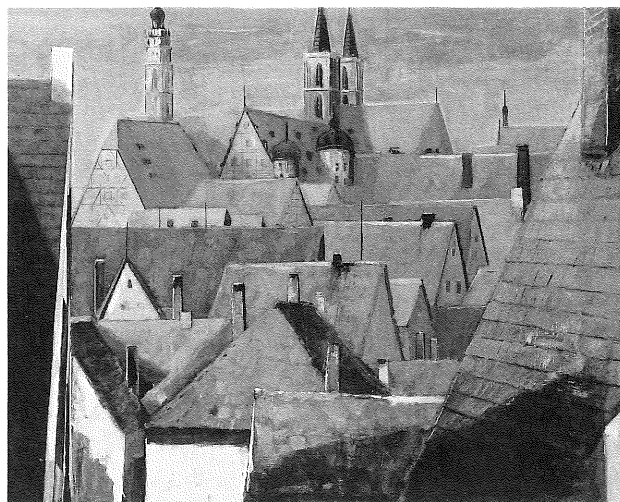
金にもならないこんな事に、なぜ私が惹き付けられて来たのか解らないが、ただ今まで、これぞ自分の快心の作品だつたと思つたものは無く、いつも欠点ばかりが目につき、こんなものでは駄目だ、今度描いたらもっとましな物が描けるだろう、と思つているうちに、いつの間にか二十五年が経つてしまいました。

私の絵の師は新槐樹社の創立者で、元日展理事の今は亡き堀田清治であり、この老先生のすさまじいばかりの芸術への追求に深く感銘し、

第3回新橋社展(1987)

赤い屋根のある風景

田辺寛次



絵画に対する心を教わったと自分では思っています。この老先生は、私がどんなに苦労した作品を持って行っても、いつもきままつて、「この程度の絵は誰でも描くよ」と言われ、私はがっかりしたのですが、これは私に対する驕りを持つつなと言う戒めの言葉として、今でも大事にしていることです。

先日ある席で、絵描きの先生が「下手な横好き」と人に言われるようになったらしめたものだ、何んでも好きなことを永年やっていっているうちに、一応の恰好がつくようになるが、絵描きの条件として、小児の目を持ち、大人の腕を持つ

ことだ、と言われてもつともだと思いました。小児の目とは、何にでも興味を持ち、感動する目のことで、やはり自分も感動することがあると、無性に絵心に馳られ、それを作品にしたいと思ってしまう。そんな意味で昨年の旅行の道中は、どこを見ても感動の連続でした。最初に訪れたギリシャのアテネの裏街など、今でも鮮やかな思い出が残っております。そして、スイス・アルプスのユング、フラウの山脈には唯々感嘆の息をのむばかり、何枚かのスケッチをしております。

その折、長島常務理事とたまたま同型のカメラだったので、一緒に山のアングルを求めて歩きました。そしてベネチアでは、水と古代の石造りの妙に魅せられシャッターを切り続け、帰国後テレビや本の写真ではない、自分だけの本物のヨーロッパが撮れたと喜んでいました。しかし、一緒に撮影していた長島常務理事の写真のことが気になり、お伺いして拝見して感動しました。まさに芸術写真ばかりで、私も幾枚か

ローテンブルグの城壁からの眺め

長島 一磨

馬場静山堂の田辺常務からお招きをいただき、東京都美術館で開催された新槐樹社展で、田辺常務の一〇〇号の力作を前にしたとき、今は懐かしい思い出となっている昨年の欧州旅行でのヨーロッパの街々の表情が画の中にありました。

をわけて頂き、その中の一枚が今回の、上野の美術館での画題となった作品だったわけです。初めての外国旅行で、何処に行っても興味をそそられ、まさに小児の目でのヨーロッパ旅行だったので、これからまだ自分の間、私の絵の題材にはヨーロッパの風景が出て来るものと思えます。そして、その作品の制作中は、ヨーロッパの街々を心の中で散策できるのも、絵を描いているお蔭と、その幸を喜んでおります。ただ惜しむらくは、私どものコースには、ロマンチック街道が含まれておらず、このコースに行かれた長島常務理事の素晴らしい写真を見て、今度機会があつたら是非とも行きたいと思えました。

私は、パリーの休日に見た有名なルーブル、印象派美術館もさることながら、裏通りの小さな画廊の何軒かで見えた、現在の美術家達の、生の息吹を感じる作品のあの感激は、終生忘れることが出来ないだろうと思えます。

深い落ち着いた赤茶色が織りなす屋根と煙突、手前の白い壁と共にみえる教会のそびえ立つ塔や屋根との対比など、田辺画伯の練達の芸は、中世の趣きを現代もお日常の中に保ち続けているローテンブルグの街を見事に画いています

た。建築物や街路と、そこで生活する人々が醸し出す街の独特の雰囲気は、特にローテンブルグに限られているわけではありませんでした。ロマンチック街道に点在するドイツの中小都市や、さらにイタリアのベネチア、フィレンツェ、スイスのルツェルン、ギリシャのアテネなど、歴史と伝統がつくる個性が息づいています。

最近、日米欧間の経済摩擦が大きな国際問題になってきましたが、その背景には、日本と西洋の間にある異文化ギャップからくるパーセプションギャップがあると思われまます。

先日、久し振りに京都を訪れ、半日の時間を割いて、南禅寺と永観院の古刹に立ち寄り、安らぎのひとときを過してきました。その折、ヨーロッパ中小都市の寺院や街を京都にオーバーストリングして、改めて気がついたことは、私共日本人の生活様式やものの考え方と、西洋人のそれとの違いの一面です。日本の社寺、古刹にはそれらが造られた当時の時間が、そのまま一瞬にして凝固し、永い歴史の中で風化している空気を感じられます。それに対して、歴史を大きな時の流れとして把握、その中に生活を造ってゆこうとする強い意志がヨーロッパの街にはありません。

明治維新や第二次世界大戦後の急激な近代化は、歴史や伝統を特定の限られた場所に封じ込め、タイムカプセルにしてしまうことにより可能になったといえます。

経済競争で日本におくれをとった欧米、特に

ヨーロッパでは、人々は日常生活の隅々にまでゆつたりとしたテンポをもつ歴史の時間の流れを損わない配慮が感じられます。

都美術館の一室で、田辺画伯の画の中から、私の脳裏に甦るヨーロッパの街の風情、そして再び眼を戻すと「赤い屋根のある風景」は典型的なヨーロッパの生活の一断面であることが確認されます。

十九世紀の初頭、日本の捕囚となったゴロー

危ない会社の見分け方(6)

実戦的経営術

60・10・16 (中央区役所商工課セミナー)

講師 S A B コンサルティング株式会社
中小企業診断士 井 合 敬 三

ニンというロシア人が残した「日本幽囚記」の中に「日本はこれ以上の開化は少しも必要としない程、殆んどヨーロッパ人に劣らない」とかいつているそうです。

その後の日本の発展が騎虎の勢となって、経済摩擦を起している現在、発展とは何か、進化とは何かを文化の角度から考え直す時機にきているのではないかと思います。

次に資金原因をとばして費用原因についてみると、原価の算出能力がないのです。原価計算の出来ない経営者が13人もいたのです。原価割れで出ているのです。ひどいのは自分の会社の原価の半分を受けているバカもいました。入ってからどうもおかしいので診断士に、3日間程分析をやらせた所、原価の半分で売っているのですから、その数字を大手の親会社に持つていつて値上げしてもらって今は何とかやっていきます。別に親会社が値切ったわけではないのです。自分でその単価で請けていました。親会社

に逆に押しつけられていたのも結構多くずっと赤字だったのが6社でした。それから人件費、リベート、支払利息については、私の顧問先の安定している会社の内、人件費が多すぎたのが12件、同じくリベートが原因で7社。支払利息はどうしても多くなるのです。行って来いの往復ビンタになりますので、一番多い約半分30社支払利息が多くて負債が多くなるという事です。その他の費用の中で一番多くなるのが交際費です。交際費の使いすぎ、私は思うのですが、税金払う所も一寸した規模にいきますと、交際費

は資本金の40万プラスいくらかでしょ、やっぱこの範囲位で押えるべきだと思います。80万になっても否認して税金払っている所も結構あります。普通100万の規模で40万以下に交際費が押えられない商売ならやめた方がいいです。それから個人的無駄使いというのが圧倒的に多いです。個人の費用を皆会社に振り向ける。社長の道楽も会社につけるといふものです。この費用原因は殆ど経営者の支出が増えてくるものです。あと一つは家庭問題というのがあって社長に二号がいるとか、妻が浮気しているとか、最近経営者の奥さんの浮気の例が多くなってきました。それから子供が原因、息子が金を持出したとか手形を使ったとかいうもの、それから経営者の両親との不仲、うまくゆかない。そして先に話しました自家用車、これを毎年のように取換えていてつづれたのが65社の内24社ありました。今でも取換える人がいます。何度言ってもきかない。ついで社交能力の不足、開発研究の不足、趣味没頭型等があります。今後多くなってくるのが保証です。保証人になって相手がつぶれたのでその弁償でつぶれるというのが増えてきます。保証を頼まれたら断わるのが一番です。私は皆に言っています。保証を頼まれたら、私の指示で出来ないのと断りなさいと、私のせいにして断わらせている。自分はやってあげたいが内の先生が来てくれなくなるので出来ないという。しつこい依頼人には、実印は先生が持っているといつてよいと言ってあります。先生に聞いてくれと、そして私の所へきたら一

切それには応じません。そうすれば私がうらまれて済むのです。絶対保証はさせませんがその代り保証を頼む事もしません。どうしても保証を頼まれて断れない時、うまく逃げる手が見つかりあります。どうしても印を押さなければいけない時は、夫婦揃って聞かない事です。書いてある時にどちらか一方で勝手にやった事にする。相談しない事です。そして銀行か保証協会かどこの保証になったのかを確かめておいて、そこへ夫婦げんかになったといつて行くのです。保証のハンを押したのが女房と離婚話しになったと言つて何とか元に戻させてくれという。但し相手方には絶対知らせないでくれと頼めば、保証人をおろしてくれまます。融資して金が出てしまえば、駄目です。2、3日内に出る前に行く。相手方にはどう伝わるかといえば、あの方だけでは信用不足ですからもう一人保証人を付けなさいとしか、言わない。これを相手にしやべると大変な問題ですから、機密を話した事になります。これをやるしかありません。ただ自分は少し傷がきます。何だあんたは信用なかったのかとしか見られませんが、しかりのがれられます。もう一つは法的に逃げる方法、保証人の欄を絶対に自分では書かず、相手に書かせてしまふ。判だけ押す。これが銀行でも一番困っている事です。すぐこれで銀行が取付サギでやられている。実筆ではない。ハンコは盗まれたもの、おれの居ない時に押したんだと、印鑑証明はカードがあれば取れるわけですから、カードと実印は悪用されたのだ。自分は承諾していな

い。サインは自分でないといえればそれまでです。現実に裁判になっている所がありますが、負けるでしょう。銀行によつては損金で落している所もある。保証人にはならない事が一番です。その次の倒産原因としては二世の能力不足。65社の内、7社がこれが原因でつぶれている。それから最後にこれは我々のような「サムライ」、顧問不適合が原因です。先生が早く注意してやればよかった、又悪質なコンサルティング会社も多いですから、それ等を信用してつぶれたという会社もこの中で7社あるのです。

私はどこへ行つても言うのですが、我々サムライ稼業というのはどこへ行つても「ダニ」みたいなものです。はつきり言つて企業から血を吸つて生活しているのです。企業が健康体のときは、大した事はないです。処が不健康になるとダニというのは余計血を吸いますから始末が悪い。ですから税理士さんやコンサルティングを付けて、うちはこれだけ払つていると、こういう仕事をして貰っているんだという情報を仲間同志お互いに取り合いなさいとよく言うのです。調査した65社の中にも顧問不適合と思われるものが16社もありました。中には脅されている経営者もいます。今も1社ある。過去の事をバラすと脅されている。私は弾劾裁判にしろと言つていますが経営者が恐がつているのです。まあこういう訳で皆様もよく注意して下さい。

有難うございました。

(拍手)

地区だより

築地互友会

5月19日
於 多毘本

5月の例会は久々に築地多毘本で開催した。定刻5時半山中幹事の司会で進められ、61年度の会計報告を春原幹事より報告前年同期よりチョッピリ多く繰越したことで幹事一同安心する。また秋の旅行計画については9月12・13日の両日群馬県老神温泉行きに決めたことを佐野幹事より報告があり一同楽しみをしている様子でうなずいていた。

このあと地区長より地区長会における内容が大要次のように報告された。一、構造改善調査表の回収では互友会が支部のトップを切って100%回収したこと支部長よりお賞めの言葉があったこと 二、5月13日開催した京橋支部の総会報告 三、6月19日に「長寿者の集い」が京橋会館で開催されるが当互友会からは、加藤秀（東京開拓社）神田半三（永和堂）佐藤倫五（佐藤印刷）春原新松（すのほら印刷）高橋ハナ（山之内印刷）三森金雄（双葉印刷）渡辺巧（渡辺印刷）の各氏が招待された。互友会は西村印刷、築地印刷が京橋支部を退会したが互友会には準会員として残り引き続き交友を図ることが報告された。この他先の春の叙勲で会友の今野平版社長 今野智吉氏が勲四等瑞宝章を受章した旨報告、一同大変名誉なことだと拍手がおくられた。

新川地区総会

5月15日
於 阿八

このあと最長老の加藤秀氏の乾盃の音頭で宴会に移り久々の顔合わせにいろいろの話に花が咲いた。久々に顔を見せた土井印刷社長はすっかり元気になり一同大変喜んでいた。当人からもお礼の挨拶もあり、つくづく健康に注意することでも一同納得した次第。宴たけなわのなか午後八時過ぎ神田半三氏の大メでお開きとなった。



5月15日(金)、八丁堀の新築になった阿八やにて恒例の例会が開かれました。まず三好地区長の挨拶で、この一年新川地区の組合員の皆様の和をモットーに運営してきました。これからも仲よくやってゆきたいと述べました。続いて、小山支部長が地元の支組員に支部運営のバック

支部の動き

アップを感謝し、大竹副支部長は乾杯の挨拶で、新川地区の地上げ等で支部員の減少が目立ってきた。今後如何に対策を立てるか急務であると述べました。そして幹事より脱退者の発表があり、会計報告等あった後、歓談に移り、皆さんくつろいで、各々話に夢中になっていましたが低速する景気のせい、人数が減ったせい、出席者がいつもより少なく感じられました。

4月2日 本部支部長会、於・日本印刷会館

小山支部長出席

4月3日 支部会計監査、於・白橋印刷所、

小山支部長、田島・柴田両監査、白橋会計

4月8日 臨時部長会、於・八丁堀吉田、小山

支部長他出席、通常総会資料点検、作成

4月9日 中央区工団連常任委員会、於・中央

区役所、小山支部長他出席

4月9日 部長・監査・地区長会、於支部室

1、支部長会報告事項

・構造改善調査票の提出状況について

・京橋支部未提出40社

・東京都印刷産業政治連盟の総会結果と

活動展開について

・統一地方選挙立候補者の推薦について

・台東区の陳情採択について

2、本部事業推進について協議事項

・臨時総代会開催について、4/9書面

参加

・総代改選について、京橋支部31名

3、当面する支部事業について
・通常総会、5/13、築地スエヒロ、会費5千円

・顧問・相談役・参与の会開催、4/22
・長寿者の集い、6月開催予定

・京青会総会、4/23(木)、築地スエヒロ
4月15日 京橋地区一区会、於・美々卯、

小山支部長、岩本書記出席
4月20日 本部支友会、於・銀座さつま、

小山支部長出席
4月22日 顧問、相談役・参与の会、於・日本

印刷会館5階、執行部と支部運営について
報告、懇談を行う。

4月23日 本部長、大竹副支部長出席
4月23日 本部理事会、於・健保会館、小山支

部長、京青会定時総会、於・築地スエヒロ
小山支部長、岩本書記出席

5月1日 カラコード研究会、於・高千穂印
刷(株)、小山支部長他役員と(株)ジャテック社

長富岡氏の話の伺い検討を行う
5月6日 全印健議員選考委員会、於・健保会

館、小山支部長出席
5月6日 中央厚生事業協組理事会、於・中央

厚生ビル、大竹副支部長出席
5月7日 本部支部長会、於・印刷会館

小山支部長出席
5月8日 部長・監査・地区長会、於・支部室

1、支部長会報告事項
・地場産業振興計画委員会委員の変更

・にせ札事件関係について
・構造改善調査票の提出状況について

・第11回全国頁物印刷連絡協の開催
2、本部事業推進について協議事項

・通常総会開催について
・62・63年度総代決定について

3、当面する支部事業について
・5/13支部通常総会進行について

・6/19、「長寿者の集い」開催について
会費5千円、おみやげ緑茶、京橋会館

印刷料金表の申込支部一括で行う
5月13日 支部通常総会、於・築地スエヒロ

5月15日 新川地区総会、於・八丁堀阿八や
小山支部長、岩本書記出席

5月23日 京橋製本協組総会、於・箱根湯本温
泉南風荘、小山支部長出席、挨拶

5月26日 本部総代会、於・九段会館
小山支部長以下総代10名出席

5月27日 全印健議員推薦会議、於・健保会
館、小山支部長出席

5月27日 中央厚生事業協組総会、於・銀座
キャピタルホテル、小山支部長出席

6月3日 中央区勤労共済会発会式、於・中央
会館、小山支部長出席

6月3日 (株)仰光社新社屋落成式、於・同社ビ
ル、小山支部長出席

6月10日 中央区工団連理事会、総会、於・中
央会館、小山支部長他理事出席

6月11日 中央厚生事業協組理事会、於・同所
ビル、小山支部長出席

6月14日 中央区工団連主催宿泊研修旅行、
於・熱海玉の湯ホテル、約40名参加

6月16日 全印健代議員大会、於・健保会館
小山支部長出席

6月18日 新加入組合員歓迎懇談会、於・京橋
会館、小山支部長、荒川副支部長、新加入

支部員2名出席
6月19日 部長・監査・地区長会、於・京橋会
館7階

1、支部長会報告事項

・62年度新設委員会の分担について
情報化促進研究会野村副委員長

・関係団体の役員改選について
東京中小企業労務改善集団連合会―倉

沢直則氏
東京都職業能力開発協会小宮山敬之氏

東京都中小企業団体中央会新村重晴氏
弔慰金の伝達方法について、小切手に

・「配送駐車」票の製作、希望者に配布
・印刷人綱領について、現文を再検討

・組合員名簿原稿確認アンケート実施
2、本部事業推進について協議事項

・新加入組合員懇談会の開催、6/18
・工場規制緩和運動の再度陳情について

・採択区、港、台東、太田、練馬、北、
足立、葛飾の各区

・郵政省の暑中ハガキ用チラシ作製につ
いて、各支部にて2/3万円負担依頼

・総合火災共済第一次加入増強月間、6
月/8月、3月/5月城西支部は6億

目標に対して9億達成

3、支部提案事項

・支部予算の支出を伴う本部提案について(文京支部)

4、当面する支部事業について

・本日の「長寿者の集い」について
長寿者出席21名、相談役・参与7名、部長監査地区長16名、来賓3名
進行次第打合せ、会費5千円、50名

小山支部長出席

6月23日 本部総務委員会、於・印刷会館、

小山支部長出席

6月26日 中央厚生事業協組理事会、小山支部

長、大竹副支部長出席

支部員の異動

加入組合員、(62年4月)

・ダイ・コー印刷(株)、木島照夫殿、新富1-

19-7、電話553-7893(新富地区)

脱退組合員(62年4月-7月)

・石田印刷(株)、(新川地区) 石田武治殿

・(有)さかえ印刷工業、(新川地区) 泉圭一殿

・(有)山本印刷所、(湊地区) 山本昭三殿

・東京印刷紙器(株)、(八丁堀地区) 中峰弘殿

所在地移転

・精巧印刷(株)の所在地が新川1-28-4、越前堀永谷マンション501に変わりました。

・三葉印刷(株)の所在地が江東区千石1-9-

15、電話699-7433に変わりました。
・(株)シール竹山の所在地は、新富2-11-2になりました。

社名変更

・入船地区、(株)竹山シーリング印刷所が、(株)シール竹山と社名変更し、住所も移転しました。

お悔み申し上げます

▼新川地区、目崎印刷(株)社長御尊父、目崎丑松殿が御逝去されました。

◎ 告知板

「有機溶剤作業主任者の職務」パネル板頒布本部公害労務委員会では各事業所の工場内の壁に貼る前記パネル板(37cm四方)を一枚150円で頒布します。尚「第二種有機溶剤」、「第三種有機溶剤」の標識板は各75円(一セット300円)です。
各事業所には必ず貼るようして下さい。

編集後記

▼九月は印刷月間です。十四日には印刷産連主催の印刷文化展が開幕します。記念式典・懇親会やシンポジウム、研究発表会、印刷展等の行事が行われます。ぜひ組合員の皆様もこれらの行事に参加して、今後の印刷業界の推

移を見定める一助とされるよう望みます。

▼京橋支部では九月二十五日(金)、中央会館にて恒例の支部永年勤続従業員表彰式を行います。各企業にて個別に行う所もありますが、支部では従業員交歓の場として、二年に一度ですが印刷月間に行つて従業員厚生の一助としますので各組合員の事業所の多数の申込みをお待ち致します。

▼都心の地価高騰も世論の反撥にあつてか鎮静化しつつありますが、地価高騰のあおりで外資系の企業も本国から社員を多く上陸させては経費がかさんで合わないとかで、香港やシンガポール等へ分散したり、独身で有能な者しか日本には置かないとか対策に苦勞しているようです。

▼六十八号は比較的バラエティーに富み、総会やら長寿者の集いもあるが是非読んで欲しいのは京青会の五月研修の中央区地区整備の推進についてである。支部員の大半がこの中央区で営業をしているのだから、今後どういう構想で整備が進められるか、一番関心の大きい問題だからだ。

▼長寿者の集いで小山支部長が記念品として提供した「青春」の詩文は大変素晴らしいもので読む人の心をグットつかんで離さない。マックアーサー元師が座右におかれたものといわれるが、今日の日本の財界の人々にとつて静かであるが大変なブームとなっているもので、小山支部長のいつも若々しい源泉はこの詩にあると見た?
(近藤)